

1. 本協議会としての取組方針について

環瀬戸内海地域交流促進協議会の今後の取組について（案）

平成 26 年時点において、瀬戸大橋が昭和 63 年に開通してから 27 年、本四 3 橋が全線開通してから 16 年を迎えた。

本州四国間の年間交流人口は、瀬戸大橋開通前に比べ約 2 倍の 5,800 万人になり、自動車交通量も約 3 倍に増加している。本四 3 橋は、観光・産業・物流等で交流の活性化に大きく、貢献しているところである。

また、平成 26 年 4 月から本四高速料金が全国共通料金制度へと移行し、環瀬戸内海地域が長年にわたり懸案としてきた全国との高速料金格差の是正が本格的に実現したことにより、当地域のさらなる活性化に向け、交流を促進する環境が大きく前進しているところである。

これを契機に「平成 26 年は環瀬戸内海経済文化交流圏形成元年」との認識の下、本州及び四国の瀬戸内海周辺地域の経済界、自治体等の関係者が一体となって様々な分野での交流を促進し、経済、生活、文化の一層の発展、向上を図ることを目的とし、環瀬戸内海地域交流促進協議会（以下「協議会」という。）を設置したところである。

環瀬戸内海地域は、豊かな自然、歴史、文化等の地域資源、特色ある産業や技術を持つ企業の集積など、高いポテンシャルを有しており、交流・連携による広域的な圏域の構築や国内外の旅行者の呼び込みにより、自立的・継続的な発展が可能である。

協議会は、環瀬戸内海地域の経済、生活、文化の一層の発展、向上を図るため、経済界、自治体等の関係者が一体となり、東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年までに年間交流人口 1,000 万人増加を目指し以下の方針で取組を進める。

記

1. 以下の4つのテーマを中心に環瀬戸内海地域の交流促進に資する広域連携の取組を積極的に推進する。また、関連する取組のパッケージ化、他県への取組の拡大などを調整することにより、協議会構成員の独自の取組の効果増進・拡大を支援する。
 - (1) 環瀬戸内海地域のスポーツ観光の振興
 - ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機とし、スポーツを通じた新しい環瀬戸内海地域の魅力を創出。
 - ・ 「サイクリストの聖地」として国内外から高い評価を得ている「瀬戸内しまなみ海道」を核としたサイクリング環境を整備。
 - ・ 広く子供から大人まで対象にしたスポーツの交流を環瀬戸内海地域において拡大。
 - (2) 瀬戸内海の「海」の魅力の発信
 - ・ 我が国最初の国立公園として指定された瀬戸内海国立公園は、内海多島美の自然景観と歴史ある人文景観が調和した「世界の宝石」とも称される瀬戸内海国立公園の魅力を地域内外へ積極的に発信。
 - ・ 瀬戸内海が持つ、穏やかで豊かな「顔」をより多くの方に知って頂き、「瀬戸内海に行きたい」と思わせるような機会を創出。
 - (3) 環瀬戸内海地域の歴史や文化のネットワーク化
 - ・ 歴史や風土に根ざした伝統的な環瀬戸内海地域の文化を、道路や情報ネットワークを活用し、広域的に情報発信。
 - ・ 瀬戸内海地域に存在する歴史的遺産を活用した環瀬戸内海地域の広域周遊を拡大。
 - (4) 環瀬戸内海地域における食文化の発信・伝承
 - ・ 瀬戸内海が生んだ、魅力ある海や陸の食を、日本や世界の方々に堪能してもらうような機会を創出。
 - ・ 環瀬戸内海地域の郷土料理や特産品・名産品の広域的な情報提供やイベントを開催
2. 1. の取組を推進するため、環瀬戸内海地域の交流促進に資する様々な取組について、インバウンド観光も意識し、多言語化などを図るとともに、ポータルサイトの開設や道の駅等を活用し、地域内外に対して一体的に情報発信する。
3. 継続的な取組を推進するとともに、毎年協議会を開催し目標の達成状況や取組の進捗状況について継続的にフォローアップする。

環瀬戸内海地域交流促進協議会における新たな取組例

(1) 環瀬戸内海地域のスポーツ観光の振興

- サイクリングでつなぐ環瀬戸内海の輪（仮称）
- サッカー公式試合での交流促進（仮称）

(2) 瀬戸内海の「海」の魅力の発信

- 瀬戸内海国立公園ウォーク（仮称）

(3) 環瀬戸内海地域の歴史や文化のネットワーク化

- 歴史的遺産のネットワーク構築とPR（仮称）
- 文化芸術ネットワークの推進（仮称）

(4) 環瀬戸内海地域における食文化の発信・伝承

- あつまれ「四国のへそ」とくとくフェア（仮称）

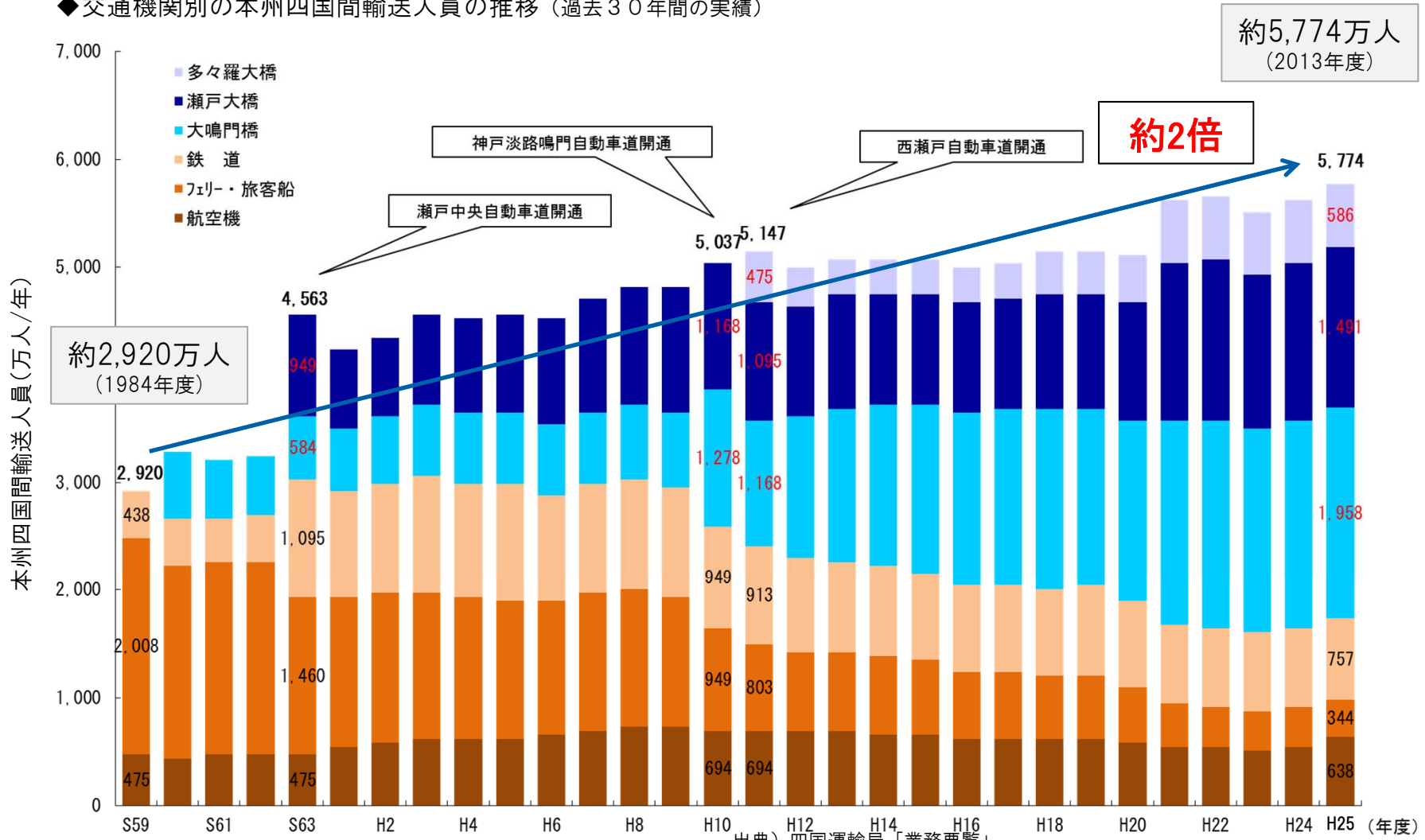
取組についての参考資料

本州四国間の交流(人の交流)

(参考)

○本州四国連絡高速道路ができて、本州四国間の交流人口は、約2倍に増加

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移(過去30年間の実績)

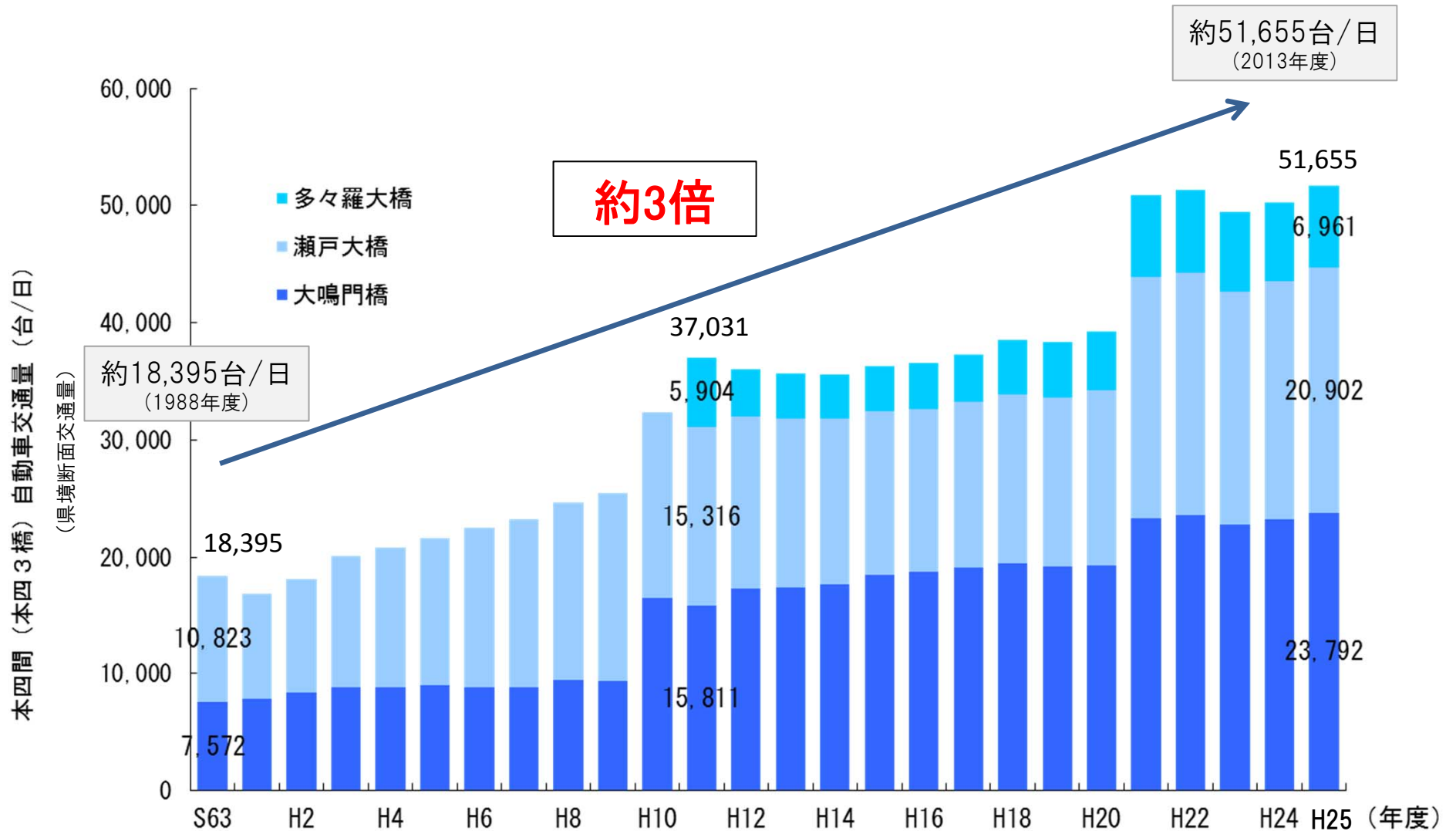


出典) 四国運輸局「業務要覧」
 注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員
 注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

交通量の状況（本四間(本四3橋)自動車交通量(県境断面交通量)）

（参考）

○瀬戸大橋開通時に比べ、本州四国間（本四3橋）の自動車交通量は約3倍



地方別訪問率の推移

(参考)

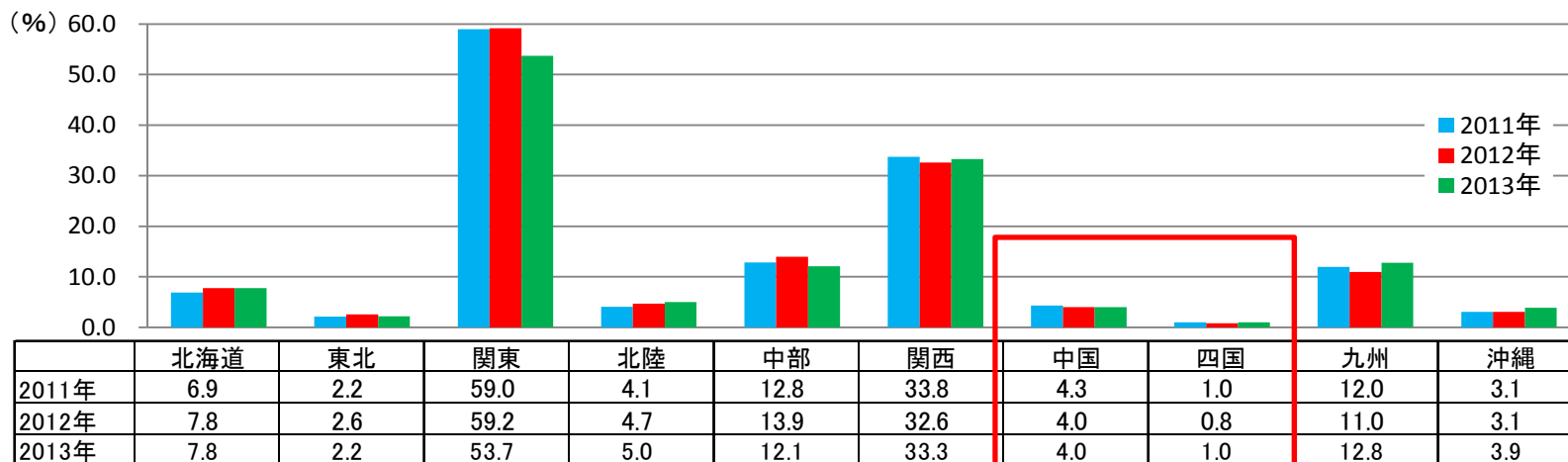
- 2014年に訪日外国人旅行者数が約1,341万人となり、2年連続で過去最多を更新。日本再興戦略（平成25年6月閣議決定）に基づき、2020年に2,000万人、2030年には3,000万人を超えることを目指し取組を推進中。
- 一方、中国・四国地方は外国人の訪問率が相対的に低く、外国人旅行者を増加させる余地が大きい。

<訪日外国人数の推移>



(注1) 2014年は政府観光局による推計

<地方別訪問率の推移>



(注1) 観光庁「訪日外国人消費動向調査」を集計

(注2) 長野県は中部、福井県は北陸で集計

※単位は(%)